

2007 年度

科目名 文化財資料論Ⅰ（考古学）	対象学科・学年 文学部文財2回生	担当者 犬木 努
授業テーマ 考古遺物の製作技術について		
授業の概要と目標 遺跡から出土する品物は、材質別に、鉄器、青銅器、土器、石器などに分けられる。この講義では、それぞれについて、その製作技術、変遷観、年代、使用法、分布、歴史的意義などを概観していく。		
評価方法 夏期休暇に課すレポートと学年末に行う筆記試験によって行う。出席点も重視する。		
テキスト 使用しない。授業中に適宜プリントを配布する。	著者	出版社
参考書 『考古学の方法』	著者 藤本強	出版社 東京大学出版会
授業スケジュール・内容 1. ガイダンス 2. 考古資料とは何か 考古学の対象、遺跡・遺構・遺物、考古資料の特質 3. 考古学と層位論 遺跡と遺物、遺物の出土状況、廃棄と埋没 4. 考古学と型式論・分類学 遺物の類似と差異、遺物のカタチの変化 5. 考古学における時間 実年代と相対年代、理化学的年代 6. 考古学と年代決定 相対年代と絶対年代、実年代の決定 7. 石器の製作技術 8. 土器の製作技術 9. 瓦の製作技術 10. 青銅器の製作技術 11. 鉄器の製作技術 12. 木器の製作技術 13. 石製品の製作技術 14. 石製模造品の製作技術 15. 試験 ※各々の項目を数回にわたって行う場合もある。また順番・内容については変更する場合がある。		